

国際学術雑誌への論文掲載について

日本の野鳥は何を食べているのか？

～日本産鳥類全種に対する食性データベースの作成～

いつも、美幌博物館の活動にご賛同頂きありがとうございます。

さて、美幌博物館はこの度、森井悠太・特定助教(京都大学)を中心とした研究グループに参画し、日本の野鳥 633 種(全種類)の食べ物(食性)を取りまとめたデータベースの作成に貢献しました。2017 年に博物館講座の講師として森井博士が来町した際に、著者の一人である渡辺恵氏が提供した情報と標本をキッカケに、日本の野鳥の食性を網羅的に調査するプロジェクトが始まりました。その成果が実り、世界でも権威ある Nature パブリッシング・グループが発行する Scientific Data 誌に論文が公開されました。

是非、記事掲載していただきたく、以下の日程で研究内容をご紹介します。なお、美幌博物館には、本研究の重要な調査結果の一つである、キジバトが食べたカタツムリの標本が保存されています。

【研究のポイント】

- ・日本に暮らす全 633 種の野鳥の食べ物を、特に軟体動物に着目してまとめました。
- ・新たに 2 種類(キジバト・エゾライチョウ)の野鳥について、情報を追加しました。
- ・本研究で作成された日本の野鳥の食べ物のデータベースは、日本周辺や地球全体を対象とした野鳥や軟体動物に関する研究プロジェクトに役立つと期待されます。

【研究内容の紹介】

時間:令和 3 年 1 月 26 日 10 時 00 分～

場所:美幌博物館 講座室 ※当日は研究に利用した標本もご覧いただけます

【タイトル】

A complete dietary review of Japanese birds with special focus on molluscs.

(日本の野鳥は、何を食べているのか？日本産鳥類全種に対する食性データベースの作成)

【公開雑誌】 Scientific Data (Nature パブリッシング・グループの発行する学術誌)

※科学的に重要なデータを掲載し、それを最大限活用することを目指している雑誌です。

受理日・印刷日:2020 年 12 月 4 日(受理) 2021 年 1 月 20 日(オンライン公開)

DOI: <https://doi.org/10.1038/s41597-021-00800-6>

【著者】

森井悠太(京都大学)・北沢宗大(北海道大学)・Theodore E. Squires (Kenkyu Services)・渡辺恵・渡辺義昭・齊藤匠(東邦大学)・山崎大志(東北大学)・内田暁友・町田善康(美幌博物館)



森井悠太(博士)

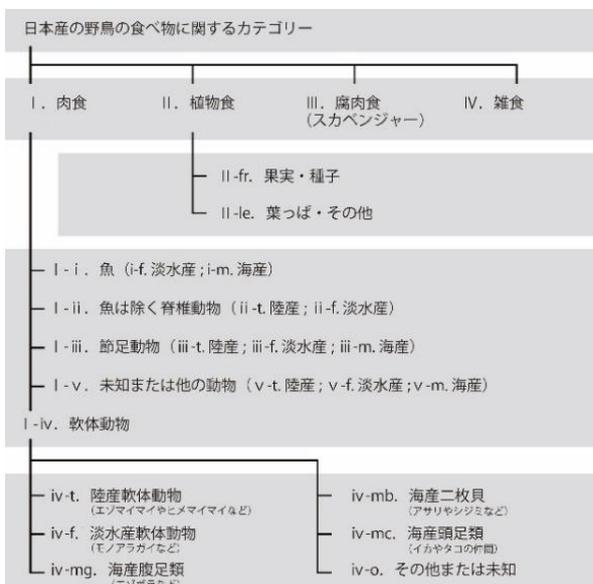
京都大学・特定助教。2014年に東北大学にて博士号を取得後、北海道大学、フローニンゲン大学(オランダ)、マッセー大学(ニュージーランド)におけるポスドク研究員を経て、現職。主な研究テーマとして、陸産貝類(カタツムリ)とその捕食者を対象に、種や表現型(生き物のカタチ)の多様化メカニズムの解明を目指している。他にも、外来種(マダラコウラナメクジ)を対象とした市民科学のプロジェクトも主導している。

【研究の背景】

野鳥は、植物の葉や種子から、虫や小型の哺乳類まで様々な生き物を食べています。生態系のトッププレデター(生態系の上位にいる捕食者)として重要な役割を果たすことも多く、野鳥が何をどの程度食べているのかを知ることは、野外における生き物同士の関わりを理解するために極めて重要です。また、野鳥は、75%近くが無脊椎動物を捕食し、農業害虫をも捕食対象とすることから、人間の活動にとって非常に有益な生き物であると認識されており、ヒトとの関わりの深い生き物でもあります。そのため、野鳥の食べ物(食性)に関する研究は、古くから世界中で数多くなされておられ、豊富な知識が蓄積されてきました。

日本でも、長い鳥類学の歴史の中で個々の研究は多くなされてきましたが、それらの多くは散発的であり、またあまりに多くの文献が散在しているため、利用しづらい状況にありました。日本列島とその周辺の島々は亜寒帯から亜熱帯に位置しているため生物多様性が高く、地球上のホットスポットのひとつとして認識されていることから、日本の野鳥の食性を正しく把握することは、地球上の全生態系を網羅的に理解するためにも重要と考えられます。

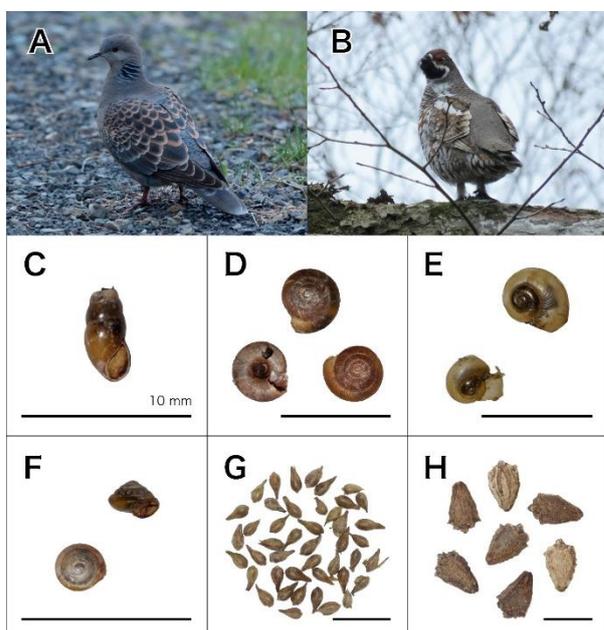
本研究では、日本のすべての野鳥の食性、および主食を分類し、特にこれまで不足していた軟体動物に関する詳細な情報をリストアップし、網羅的なデータベースを作成しました。



【研究の方法】

日本に暮らす 633 種類の野鳥について、以下のカテゴリー分けで、食べているものを取りまとめました。野鳥の食べ物については、1913年から2018年に発表された165件の学術論文と書籍から収集しました。

【結果】



キジバト(A)からは、ヤマボタルガイ(C)、パツラマイマイ(D)、エゾマイマイ(E)、エゾキビ(F)が見つかり、エゾライチョウ(B)からは、オカモノアラガイが見つかりました。

文献調査と2種類の新たに確認された情報を加えると日本の野鳥633種の内248種がカタツムリや二枚貝などを含む軟体動物を捕食していました。さらに詳しく見ると、陸産軟体動物を食べていたのが87種。次いで、淡水産軟体動物が48種、海産腹足類が43種、海産二枚貝が36種、海産頭足類(イカ・タコ)が41種でした。

【今後の展開】

本論文で公開されたデータベースによって、165件もの文献に分散して示されていた日本の野鳥の食べ物がまとめられ、網羅的に示されました。これによって、日本全域、果ては地球全球レベルでの、鳥類や軟体動物に関する研究プロジェクトに役立てることができると考えられます。

問い合わせ先

美幌博物館 町田 善康 (まちだ よしやす)

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

TEL 0152-72-2160/FAX0152-72-2162

北海道大学大学院農学研究院

教授 中村太士 (なかむらふとし)

TEL 011-706-3343/FAX 011-706-3343

E-mail nakaf@for.agr.hokudai.ac.jp

URL <http://harunirehp.wixsite.com/forman>

配信元

美幌博物館 学芸員 町田善康

TEL 0152-72-2160/FAX0152-72-2162

E-mail museum@town.bihoro.hokkaido.jp

北海道大学総務企画部広報課

〒060-0808

札幌市北区北8条西5丁目

TEL 011-706-2610/FAX 011-706-2092

E-mail kouhou@jimuhokudai.ac.jp